

生物多様性影響評価検討会
総合検討会

令和8年3月23日（月）

午後1時30分 開会

○事務局 それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第2回生物多様性影響評価検討会総合検討会を開催いたします。

本日の総合検討会ですが、伊藤委員、田中委員、津村委員、永田委員、平塚委員、間瀬委員に御出席いただいております。

また、刑部委員と菊池委員におかれましては、所用のため御欠席と伺っております。

それでは、この後の議事につきましては平塚座長に進行をお願いしたいと思います。

平塚座長、どうぞよろしくお願いいたします。

○平塚座長 本日は何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

早速ですが、議事1の遺伝子組換え生物の第一種使用規程の承認に係る申請書等について、本日は農林水産大臣及び環境大臣宛てに提出された8件の第一種使用規程承認申請について、農作物分科会での検討結果を田中委員から御報告いただき、より幅広い視点から遺伝子組換え生物による生物多様性に及ぼす影響について御検討いただきたいと思います。

それでは、1件目、コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社から申請がありました、除草剤PPO阻害剤、アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズについて検討したいと思います。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いします。

○事務局 事務局の下田です。

ただいま事前に配付しました資料1の9ページ目を共有しております。

座長から紹介がありましたように、申請者はコルテバ・アグリサイエンス日本株式会社です。

遺伝子組換え生物の名称は、除草剤PPO阻害剤、アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズです。

括弧の中は導入遺伝子、それからイベント名になりますけれども、こちらは省略いたします。

使用等の内容ですけれども、隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換え生物について、競合における優位性及び有害物質の産生性に関しては、影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

それから、交雑性に関しましては、影響を受ける可能性のある野生動植物としてツルマメが特定され、ツルマメの集団中に本遺伝子組換えダイズの導入遺伝子である *ppo-1.5.1* 遺伝子、

aad-12.1 遺伝子、*dgt-28 epsps.1* 遺伝子、*dsm-2 pat* 遺伝子が浸透し、その集団の競合における優位性が高まる可能性が考えられましたが、ツルマメにこれらの遺伝子が浸透し優位性が高まる可能性は低いと考えられたことから、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

そのほか特記事項及び事前のコメントはありません。

本件につきまして、申請書類一式と農作物分科会の検討の結果を事前に委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上となります。

それでは、平塚座長、よろしくお願いいたします。

○平塚座長 ありがとうございます。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 本日は8件の第一種使用規程承認申請案件について、農作物分科会のほうから検討結果の報告があります。8件のうちシングル系統の案件としては、このダイズ1件のみになります。その他案件はトウモロコシのスタック系統が4件とダイズのスタック系統が3件になります。

本組換えダイズですが、ヒュモドキ由来のプロトポルフィリノーゲンオキシダーゼ（PPO蛋白質）をコードする *ppo-1.5.1* 遺伝子、それから改変AAD-12蛋白質をコードする *aad-12.1* 遺伝子、それから *Streptomyces sviveus* 由来の5-エノールピルビルシキミ酸-3-リン酸合成酵素（DGT-28E PSPS蛋白質）をコードする *dgt-28 epsps.1* 遺伝子、それからホスフィノスリシンN-アセチルトランスフェラーゼ（DSM-2 PAT蛋白質）をコードする *dsm-2 pat* 遺伝子、この4つの遺伝子の発現カセットを含む挿入DNA領域が染色体上に1コピー組み込まれており、PPO阻害型除草剤耐性、アリルオキシアルカノエート系除草剤耐性、除草剤グリホサート耐性、除草剤グリホシネート耐性が付与されています。

競合における優位性についてですが、栽培作物であるダイズは雑草としての特性を有しておらず、これまでに我が国の自然条件下で雑草化したとの報告はなされておられません。自生能力を持たない栽培作物であるダイズが自生能力を獲得するためには、種子の脱粒性及び休眠性の獲得が必要ですが、本組換えダイズに付与された除草剤耐性が種子の脱粒性及び休眠性に関与するとは考え難いため、本組換えダイズが我が国の自然環境下で自生するようになることはなく、その競合における優位性が高まることはないと考えられました。

以上のことから、本組換えダイズは、限定された環境で一定の作業要領を備えた隔離ほ場に

おける栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為の範囲内では、競合における優位性に起因する生物多様性影響を生ずるおそれはないとの申請者による結論は妥当であると判断いたしました。

それから、有害物質の産生性についてです。

これまでにダイズが自然環境下で野生動植物等の生育又は生息に支障を及ぼす有害物質を産生するという報告はなされておられません。本組換えダイズ中に産生される除草剤耐性蛋白質はいずれも酵素活性を有するが、基質特異性が高い上に各蛋白質の基質は異なり、関与する代謝系も互いに独立している。このため、これらの蛋白質が相互に影響する可能性は低く、宿主の代謝経路に作用して有害物質を産生するとは考え難い。また、これらの蛋白質は既知アレルゲンとの間に有意な相同性を有しておらず、アレルギー誘発性を示す可能性も低い。

以上のことから、本組換えダイズは、限定された環境で一定の作業要領を備えた隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為の範囲内では、有害物質の産生性に起因する生物多様性影響を生ずるおそれはないとの申請者による結論は妥当であると判断いたしました。

次に、交雑性についてです。

ダイズは近縁野生種であるツルマメと交雑可能であることから、交雑性に起因して影響を受ける可能性のある野生動植物等としてツルマメが特定されました。

また、具体的な影響として、本組換えダイズとツルマメが交雑することにより、本組換えダイズ由来の除草剤耐性遺伝子がツルマメの集団中に浸透した後に、その集団の競合における優位性が高まることが考えられました。

しかしながら、ダイズとツルマメが自然交雑する可能性は極めて低いことが知られており、また、本組換えダイズに産生される除草剤耐性蛋白質が宿主の持つ代謝系を変化させる可能性は低く、本組換えダイズの交雑性に関わる生理学的又は生態学的特性に影響を及ぼすとは考え難いことから、本組換えダイズの交雑性は従来のダイズと異なるものではないと考えられました。

さらに、本組換えダイズは隔離ほ場内での試験栽培にのみ使用されること、過去に当該隔離ほ場の周辺でツルマメの自生は確認されていないこと、試験栽培に際して本組換えダイズの漏出防止措置が講じられること等から、本組換えダイズが自然環境下でツルマメと交雑するとは考え難い。

加えて、仮に本組換えダイズとツルマメが交雑した場合でも、その雑種が我が国の自然環境

条件に適応していく可能性は極めて低いことから、本組換えダイズ由来の導入遺伝子がツルマメの集団中に浸透するとは考え難い。

以上のことから、本組換えダイズは、限定された環境で一定の作業要領を備えた隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為の範囲内では、交雑性に起因する生物多様性影響を生ずるおそれはないとの申請者による結論は妥当であると判断いたしました。

以上の3つの観点から農作物分科会における検討の結果として、本組換えダイズは、限定された環境で一定の作業要領を備えた隔離ほ場における栽培、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為の範囲内では、我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断いたしました。

私からのこの案件についての報告は以上でございます。

○平塚座長 どうもありがとうございました。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料2-1）について、御質問、御意見等はいかがでしょうか。

どなたからでも結構です。

新規案件ということで、それぞれ個別の遺伝子の特性についても書類のほうではかなり詳しく言及されているかと思いますが、いかがでしょうか。

特にございませんでしょうか。

○田中委員 私から1点だけもうちょっと加えておくと、*ppo*遺伝子は植物ではポリフェノールオキシダーゼを指すことが結構多いのですけれども、このプロトポルフィリノーゲンオキシダーゼはそれとは全く別の酵素であることを付け加えさせていただければと思いました。

○平塚座長 ありがとうございます。

それでは、特にないようでしたら本件、除草剤PPO阻害剤、アрилオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズについて、第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告をしたいと思えます。

御検討どうもありがとうございました。

それでは、続いて2件目、コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社から申請がありました、チョウ目害虫抵抗性並びに除草剤グリホサート、グルホシネート及びアрилオキシアルカノエート系耐性並びに収量増加トウモロコシについて検討したいと思えます。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いします。

○事務局 ただいま資料1の10ページ目を共有しております。

座長から紹介がありましたように、申請者はコルテバ・アグリサイエンス日本株式会社、遺伝子組換え生物の名称は、チョウ目害虫抵抗性並びに除草剤グリホサート、グルホシネート及びアрилオキシアルカノエート系耐性並びに収量増加トウモロコシです。

使用等の内容は、食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換えについて、競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性、いずれに関しても影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

そのほか特記事項、事前のコメントはありません。

本案件ですけれども、4重スタックの系統でありまして、4つの遺伝子組換え系統を交配して作出をされております。

同じく資料1の2ページ目になりますけれども、こちらに交配に用いました4つの親系統それぞれにつきまして、遺伝子組換え生物の名称、申請者、使用等の内容を記載しております。

それから、親系統に関しまして、カルタヘナ法、食品衛生法、飼料安全法に基づく審査状況をまとめておりますので、御確認ください。

なお、本日、本案件以降のスタック系統の審議案件につきましても親系統の審査状況を同様に表にまとめておりますが、個別の説明は割愛させていただきたいと思っております。

最後になりますが、本案件につきまして申請書類の一式と検討の結果を事前に委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上になります。

平塚座長、よろしく願いいたします。

○平塚座長 ありがとうございました。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 本4重スタック系統の検討に当たっては、親系統に移入された遺伝子の発現による形質間の相互作用の有無を検討し、形質間の相互作用がないと判断される場合には、親系統の生物多様性影響評価情報を用いて、当該スタック系統の生物多様性影響評価を行うことが可能となっております。

この系統はトウモロコシの4重スタック系統であり、1番目としてDAS1131、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ、2番目としてDP910521、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グリホシネート耐性トウモロコシ、3番目としてDP202216、収量増加及び除草剤グリホシネート耐性トウモロコシ、最後にDAS40278、アリルオキシアルカノエート系除草剤耐性トウモロコシ、といったこれら4系統を用いて交雑育種法により作出された系統でございます。

本スタック系統で発現する害虫抵抗性蛋白質、除草剤耐性蛋白質及び収量増加に関わるZMM28蛋白質については、それぞれが有する機能や作用機序等を踏まえると、いずれの蛋白質間においても相互に作用して宿主の代謝系を変化させ、予期しない代謝物を生じさせることや互いの作用に影響を及ぼし合う可能性は低いと考えられます。

したがって、本スタック系統及びその分離系統に包含される組合せにおいて、各親系統由来の蛋白質により親系統の範囲を超えた新たな特性が付与されることは考え難く、親系統が有する形質を併せ持つこと以外に評価すべき形質の変化はないと考えられました。

なお、各系統の評価項目である、競合における優位性、有害物質の産生性及び交雑性については既に検討が終了しており、当該親系統を第一種使用規程に従って使用した場合に我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されているため、農作物分科会における検討の結果として、本系統についても同様の判断といたしました。

私からの報告は以上でございます。

○平塚座長 どうもありがとうございました。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料3-1）について、御質問、御意見等はいかがでしょうか、どなたからでも結構です。

こちらはスタックで個別には既に検討済みの案件でございますが、これも特にないようでしたら、それではチョウ目害虫抵抗性及び除草剤グリホサート、グリホシネート及びアリルオキシアルカノエート系耐性及び収量増加トウモロコシについて、第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告したいと思っております。

どうもありがとうございました。

続きまして、3件目です。

バイエルクロップサイエンス株式会社から申請がありました、除草剤グリホサート誘発性雄

性不稔、除草剤グリホサート耐性及びチョウ目害虫抵抗性トウモロコシについて検討したいと思いをします。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いします。

○事務局 事務局、下田です。

ただいま資料1の11ページ目を共有しております。

座長から紹介がありましたように、申請者はバイエルクロップサイエンス株式会社です。

遺伝子組換え生物の名称は、除草剤グリホサート誘発性雄性不稔、除草剤グリホサート耐性及びチョウ目害虫抵抗性トウモロコシです。

括弧の中は省略いたします。

使用等の内容は、食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換え生物について、競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性のいずれについても影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

そのほか特記事項及び事前のコメントはございません。

本件につきましても申請書類一式と農作物分科会の検討の結果を委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上です。

平塚座長、よろしく願いいたします。

○平塚座長 ありがとうございます。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 本案件についての概要を報告させていただきます。

本スタック系統トウモロコシは4重スタック系統で、MON87427、除草剤グリホサート誘発性雄性不稔及び除草剤グリホサート耐性トウモロコシ、それからMON95379、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ、MIR162、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ、それからNK603、除草剤グリホサート耐性トウモロコシ、これら4系統を用いて交雑育種法により作出された系統でございます。

本スタック系統で発現する除草剤耐性蛋白質、選抜マーカー蛋白質及び害虫抵抗性蛋白質については、それぞれが有する機能や作用機序等を踏まえると、いずれの蛋白質間においても相互に作用して宿主の代謝系を変化させ、予期しない代謝物を生じさせることや互いの作用に影響

響を及ぼし合う可能性は低いと考えられます。

したがって、本スタック系統及びその分離系統に包含される組合せにおいて、各親系統由来の蛋白質により親系統の範囲を超えた新たな特性が付与されることは考え難く、親系統が有する形質を併せ持つこと以外に評価すべき形質の変化はないと考えられました。

各親系統の評価項目である競合における優位性、有害物質の産生性及び交雑性の3点については既に検討が終了しており、当該親系統を第一種使用規程に従って使用した場合に我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されているため、農作物分科会の検討の結果として、本スタック系統についても同様の判断といたしました。

私からの報告は以上でございます。

○平塚座長 どうもありがとうございました。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料4-1）について、御質問、御意見等はいかがでしょうか、どなたからでも結構です。

本件もスタックですので、それぞれ個別の案件に関しては既に対応済みということでございますが、特にないようでしたら、ただいま御説明がありました除草剤グリホサート誘発性雄性不稔、除草剤グリホサート耐性及びチョウ目害虫抵抗性トウモロコシについて、第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告をしたいと思っております。

どうもありがとうございました。

続きまして、本日4件目です。

シンジェンタジャパン株式会社から申請がありました、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシについて検討したいと思います。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いします。

○事務局 ただいま資料1の12ページ目を共有しております。

座長から紹介がありましたとおり、申請者はシンジェンタジャパン株式会社です。

遺伝子組換え生物の名称は、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシです。

括弧の中は省略いたします。

使用等の内容ですけれども、食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換え生物について、競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性のいずれについても影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

そのほか特記事項及び事前のコメントはございません。

本件についても申請書類一式と検討の結果を事前に委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上となります。

平塚座長、よろしくお願いたします。

○平塚座長 ありがとうございます。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 本日4件目のスタックトウモロコシについて報告いたします。

本システムトウモロコシは4重スタックシステムで、Bt11、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ、それからMIR162、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ、それからMON89034、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ、それからNK603、除草剤グリホサート耐性トウモロコシ、これら4システムを用いて交雑育種法により作出されたものでございます。

本スタックシステムで発現する害虫抵抗性蛋白質、それから除草剤耐性蛋白質及び選抜マーカー蛋白質については、それぞれが有する機能や作用機序等を踏まえるといずれの蛋白質間においても相互に作用して宿主の代謝系を変化させ、予期しない代謝物を生じさせることや互いの作用に影響を及ぼし合う可能性は低いと考えられました。

したがって、本スタックシステム及びその分離システムに含まれる組合せにおいて、各親システム由来の蛋白質により親システムの範囲を超えた新たな特性が付与されるとは考え難く、親システムが有する形質を併せ持つこと以外に評価すべき形質の変化はないと考えられました。

なお、各親システムの評価項目である競合における優位性、有害物質の産生性及び交雑性については既に検討が終了しており、当該親システムを第一種使用規程に従って使用した場合に我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されているため、農作物分科会における検討の結果として、本スタックシステムについても同様の判断といたしました。

私からの報告は以上でございます。

○平塚座長 ありがとうございます。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料5-1）について、御質問、御意見等はいかがでしょうか。

どなたからでも結構です。

こちらも割と典型的なスタックのバックグラウンドに使われてきているようなものの一連のもの一種というそんな内容ですね。

特にないかと思いますが、それでは本件、チョウ目害虫抵抗性並びに除草剤グルホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシについて第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告をしたいと思います。

どうもありがとうございました。

続いて5件目です。

シンジェンタジャパン株式会社から申請がありました、耐熱性 α -アミラーゼ産生、チョウ目及びコウチュウ目害虫抵抗性並びに除草剤グルホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシについて検討したいと思います。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いいたします。

○事務局 ただいま資料1の13ページ目を共有しております。

申請者はシンジェンタジャパン株式会社、遺伝子組換え生物の名称は、耐熱性 α -アミラーゼ産生、チョウ目及びコウチュウ目害虫抵抗性並びに除草剤グルホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシです。

括弧の中は省略いたします。

使用等の内容は、食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換え生物について、競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性のいずれについても影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

そのほか特記事項及び事前のコメントはございません。

本件につきましても申請書類一式と検討の結果を事前に委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上となります。

平塚座長、よろしく願いいたします。

○平塚座長 ありがとうございます。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 こちらもスタック系統のトウモロコシになります。

本件は6重スタック系統になっておりまして、1つ目の系統が3272、耐熱性 α -アミラーゼ産生トウモロコシ、2つ目の系統がBt11、チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ、それから3つ目がMIR162、チョウ目害虫抵抗性トウモロコシ、4つ目がMZIR098、コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ、5つ目が4114、チョウ目及びコウチュウ目害虫抵抗性並びに除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ、6つ目がNK603、除草剤グリホサート耐性トウモロコシ、以上6つの系統を用いて交雑育種法により作出されたものでございます。

本スタック系統トウモロコシで発現する耐熱性 α -アミラーゼ、それから害虫抵抗性蛋白質、除草剤耐性蛋白質及び選抜マーカー蛋白質については、それぞれが有する機能や作用機序等を踏まえると、いずれの蛋白質間においても相互に作用して宿主の代謝系を変化させたり、予期しない代謝物を生じさせることや互いの作用に影響を及ぼし合う可能性は低いと考えられます。

したがって、本スタック系統及びその分離系統に包含される組合せにおいて、各親系統由来の蛋白質により親系統の範囲を超えた新たな特性が付与されることは考え難く、親系統が有する形質を併せ持つこと以外に評価すべき形質の変化はないと考えられました。

各親系統の評価項目である競合における優位性、有害物質の産生性及び交雑性、以上3点については既に検討が終了しており、当該親系統を第一種使用規程に従って使用した場合に我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されているため、農作物分科会の結論として、本スタック系統についても同様の判断とさせていただきます。

私からの報告は以上でございます。

○平塚座長 御説明どうもありがとうございました。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料6-1）について、御質問、御意見等はありませんでしょうか。

これも前案件と類似の過去に十分経験のあるような内容かとは思いますが、特にございませんでしょうか。

それでは、本件、耐熱性 α -アミラーゼ産生、チョウ目及びコウチュウ目害虫抵抗性並びに

除草剤グルホシネート及びグリホサート耐性トウモロコシについて、第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告をしたいと思います。

どうもありがとうございました。

続きまして、6件目です。

シンジェンタジャパン株式会社から申請がありました、除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート、グルホシネート及びイソキサフルトール耐性ダイズについて検討したいと思います。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いします。

○事務局 だいま資料1の14ページ目を共有しております。

申請者はシンジェンタジャパン株式会社、遺伝子組換え生物の名称は、除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート、グルホシネート及びイソキサフルトール耐性ダイズです。

括弧の中は省略いたします。

使用等の内容は、食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換え生物について、競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性のいずれについても影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

そのほか特記事項及び事前のコメントはございません。

本件につきましても申請書類一式と検討の結果を事前に委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上となります。

平塚座長、よろしく願いいたします。

○平塚座長 ありがとうございました。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 ここからダイズの案件になります。

ダイズはトウモロコシと違ってもう少しシンプルなスタック系統になります。

本スタック系統ダイズは2重スタック系統で、除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ、系統名がDAS44406、それから除草剤グリホサート及

びイソキサフルトール耐性ダイズ、FG72の2系統を用いて交雑育種法により作出されたものでございます。

本スタック系統で発現する除草剤耐性蛋白質はいずれも酵素活性を有するが、基質特異性が高い上に、各蛋白質の基質は異なり、関与する代謝経路も互いに独立していることから、これら蛋白質が相互に作用して宿主の代謝系を変化させ、予期しない代謝物を生じさせることはないと考えられました。

したがって、本スタック系統において各親系統由来の蛋白質により親系統の範囲を超えた新たな特性が付与されることは考えにくく、親系統が有する形質を併せ持つこと以外に評価すべき形質の変化はないと考えられました。

各親系統の評価項目である競合における優位性、有害物質の産生性及び交雑性、以上3点については既に検討が終了しており、当該親系統を第一種使用規程に従って使用した場合に我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されているため、農作物分科会の結論として、本スタック系統についても同様の判断といたしました。

私からの報告は以上でございます。

○平塚座長 ありがとうございます。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料7-1）について、御質問、御意見等ございませんでしょうか。

いかがでしょう。

こちらは先ほど御説明あったとおり、トウモロコシよりいささかシンプルな内容ではありますが、ダイズということで、特にないようでしたら、除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート、グルホシネート及びイソキサフルトール耐性ダイズについて、第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告したいと思います。

どうもありがとうございました。

続きまして、本日の7件目でございます。

バイエルクロップサイエンス株式会社から申請がありました、除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系、トリケトン系及びグリホサート耐性ダイズについて検討したいと思います。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いします。

○事務局 ただいま資料1の15ページ目を共有しております。

座長から紹介がありましたとおり、申請者はバイエルクロップサイエンス株式会社です。

遺伝子組換え生物の名称は、除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系、トリケトン系及びグリホサート耐性ダイズです。

括弧の中は省略いたします。

使用等の内容は、食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換え生物について、競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性のいずれに關しても影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無しと判断されております。

そのほか特記事項及び事前のコメントはございません。

本件につきましても申請書類一式と検討の結果を事前に委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上となります。

平塚座長、よろしく願いいたします。

○平塚座長 ありがとうございます。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 本スタック系統ダイズは、こちらにも2重スタック系統でありまして、除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系及びトリケトン系耐性ダイズ、MON94313、それから除草剤グリホサート耐性ダイズ、MON89788、これら2系統を用いて交雑育種法により作出されたものでございます。

本スタック系統で発現する除草剤耐性蛋白質はいずれも酵素活性を有するが、基質特異性が高い上に各蛋白質の基質は異なり、関与する代謝経路も互いに独立していることから、これらの蛋白質が相互に作用して宿主の代謝系を変化させ、予期しない代謝物を生じさせることはないと考えられました。

したがって、本スタック系統において各親系統由来の蛋白質により親系統の範囲を超えた新たな特性が付与されるとは考え難く、親系統が有する形質を併せ持つこと以外に評価すべき形質の変化はないと考えられました。

各親系統の評価項目である競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性、これら3点に

ついてはいずれも検討が終了しており、当該親系統を第一種使用規程に従って使用した場合に我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されているため、農作物分科会における検討の結果として、本スタック系統についても同様の判断になりましたことを報告させていただきます。

私からこの件以上でございます。

○平塚座長 どうもありがとうございました。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料8-1）について、御質問、御意見等はいかがでしょうか、どなたからでも結構です。

これも前案件と同様にダイズではございますが、比較的シンプルなスタック系統ということですが、よろしいでしょうか。

それでは、申請者から提出された除草剤グルホシネート、ジカンバ、アリルオキシアルカノエート系、トリケトン系及びグリホサート耐性ダイズについて、第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告をしたいと思えます。

どうもありがとうございました。

続きまして、本日8件目、BASFジャパン株式会社から申請がありました、線虫抵抗性、チョウ目害虫抵抗性並びに除草剤4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型、アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズについて検討したいと思えます。

まず、事務局から本案件の概要について説明をお願いします。

○事務局 ただいま資料1の16ページ目を共有しております。

申請者はBASFジャパン株式会社です。

遺伝子組換え生物の名称は、線虫抵抗性、チョウ目害虫抵抗性並びに除草剤4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型、アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズです。

括弧の中は省略いたします。

使用等の内容は、食用又は飼料用に供するための使用、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為となっております。

本遺伝子組換え生物について、競合における優位性、有害物質の産生性、交雑性のいずれにつきましても影響を受ける可能性のある野生動植物は特定されず、生物多様性影響の有無は無

しと判断されております。

そのほか特記事項及び事前のコメントはございません。

本件についても申請書類一式と検討の結果を事前に委員の先生方にお送りし、御確認をいただいているところです。

事務局からは以上となります。

平塚座長、よろしくお願いたします。

○平塚座長 ありがとうございます。

それでは、農作物分科会での検討結果について、農作物分科会の田中座長より概要を説明願います。

○田中委員 本日、農作物分科会の報告、最後の報告になります。

本スタック系統ダイズは3重スタック系統になっておりまして、系統名GMB151、こちらは線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズでございます。

2つ目がDAS81419、こちらがチョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性ダイズでございます。

3つ目がDAS44406、こちらが除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズになります。

本スタック系統ダイズはこれら3つの系統を用いて交雑育種法により作出されたスタック系統でございます。

本スタック系統で発現する線虫抵抗性蛋白質、害虫抵抗性蛋白質及び除草剤耐性蛋白質については、それぞれが有する機能や作用機序等を踏まえると、いずれの蛋白質間においても相互に作用して宿主の代謝系を変化させ、予期しない代謝物を生じさせることや互いの作用に影響を及ぼし合う可能性は低いと考えられます。

したがって、本スタック系統において各系統由来の蛋白質により親系統の範囲を超えた新たな特性が付与されるとは考え難く、親系統が有する形質を併せ持つこと以外に評価すべき形質の変化はないと考えられました。

各親系統の評価項目である競合における優位性、有害物質の産生性及び交雑性、これら3点については既に検討が終了しており、当該親系統を第一種使用規程に従って使用した場合に我が国における生物多様性に影響を生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されているため、農作物分科会における検討の結果として、本スタック系統に

についても同様の判断といたしました。

以上、私から報告させていただきます。

○平塚座長 どうもありがとうございます。

ただいま御説明いただいた分科会の検討結果（資料9-1）について、御質問、御意見等はありませんでしょうか。

本件は線虫抵抗性というところが割と最近の案件でございまして、それについてはいろいろ専門家も招いて十分に検討し、検討し尽くした感がありますが、いかがでしょうか。

特にお気づきの点等ないようでしたら、本件申請がありました、線虫抵抗性、チョウ目害虫抵抗性並びに除草剤4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型、アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズについて、第一種使用規程に従って使用した場合、生物多様性に影響が生じるおそれはないとした生物多様性影響評価書の内容は科学的に適正である旨、大臣宛てに報告をしたいと思えます。

どうもありがとうございました。

次に、議事2のその他でございしますが、事務局など御報告ありますでしょうか。

○事務局 今回事務局から相談事項や報告は特段ございません。

○平塚座長 ありがとうございます。

そのほか本日の議事全般について何かございますでしょうか。

（なし）

特に無いようですので、以上で本日の議事は全て終了いたしました。

議事進行を事務局にお返しします。

○事務局 平塚座長、どうもありがとうございました。

また、委員の先生におかれましても本日は御審議いただきましてありがとうございました。

これで全ての議事が終了しましたので、以上をもちまして令和7年度第2回生物多様性影響評価検討会総合検討会を閉会したいと思います。

御参加の皆様は各自退室をお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

午後2時25分 閉会